



欠点は持ち味

人の欠点が気になったら、自分の器が小さいと思うべきです。他人の短所が見えなくなったら相当の人物、長所ばかりが見えてきたら大人物です。
石井 久（元立花証券会長）

何年前か、こんな言葉を目にしたことがあります。

その時、まだまだ私は器が小さいなと反省しました。人の欠点だけではありません、自分の欠点も大いに気になるところです。

しかし、よく考えてみると、欠点というのはその人の持ち味ではないでしょうか。それというのは、取り除くことができないのかもしれませんが。自分の一番良いところを伸ばしていくと、欠点もその人の全ての中で良いものとして表現されてくるものかもしれません。

親の目から子どもを見る時、欠点が気になってしまうことがあります。そんな時は、ゆったりと子どもを見つめ、いかに「子どもの持ち味を高めていくか」と考えることが大切なのではないでしょうか。

子どもたちは、友達の欠点が気になった時、嫌な気持ちを持ち、場合によっては心ない言葉をかけてしまい相手を傷つけたり、トラブルになってしまったりすることもあります。子どもたちにも、欠点とは取組方しだいで友達の、そして自分の持ち味にも成り得るということを教えていく必要があります。欠点を自分で克服したり、その欠点を受け入れ持ち味にしたりすれば、自分に対しても他の人に対しても、優しい気持ちになれるのではないのでしょうか。

下の言葉は、数多くの名作に出演した名女優オードリー・ヘプバーンさんの言葉です。世界中の多くの人を魅了した方が、このような言葉を残している、素敵です。

私にとって最高の勝利は、ありのままで生きられるようになったこと、自分と他人の欠点を受け入れられるようになったことです。

オードリー・ヘプバーン

図書ボランティアご協力 ありがとうございます

毎年、図書ボランティアにご協力いただき感謝申し上げます。

5月8日には、ボランティアの方にお集まりいただき、今年度の活動について話し合いを行いました。今年度は、昨年度より多い22名の方にご協力いただけることになり、大変ありがたく思っております。今後とも本校の特色である読書活動の充実に向けご協力をよろしくお願いいたします。